



ボックススタイルカメラ想定活用シーン ニューススタジオ

Panasonic

発行：2025年11月

リモートカメラと共通プロトコルを持つボックスカメラを使用することで、
限られたリソースでトラブルレスな運用を可能に。

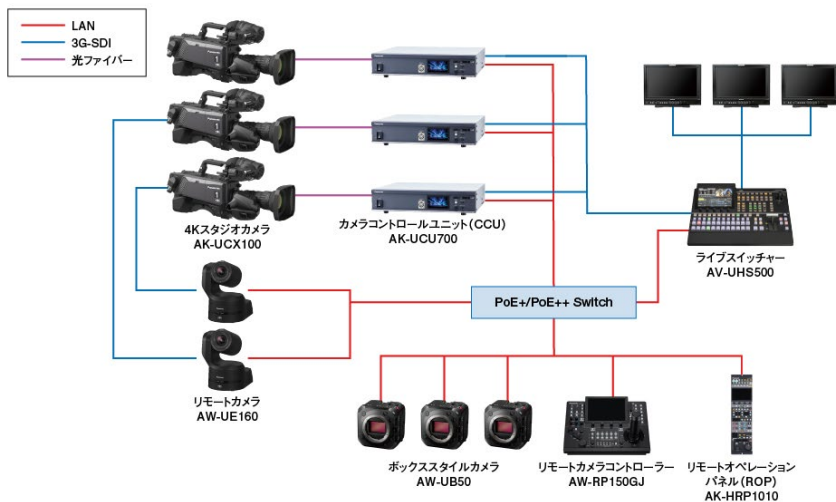
演出・効果

リモートカメラとボックススタイルカメラを適所に配置することで、スタジオカメラの
台数を最低限に抑え、尚且つ効果的な画作りを行うことができる。

また対談などのシーンでは目立たないボックススタイルカメラを使用することで、話者の
自然な表情を引き出すことができる。

そしてスタジオ内のすべてのカメラを同一 ROP で制御し、GENLOCKもかけることができ
るのでトラブルの少ないシンプルなシステム設計が可能。

システム構成図



ボックススタイルカメラの
その他の想定活用例はこちら



ボックススタイルカメラの
製品情報はこちら



AW-UB50 + システムカメラ +
リモートカメラ



AW-UB50



システムカメラ

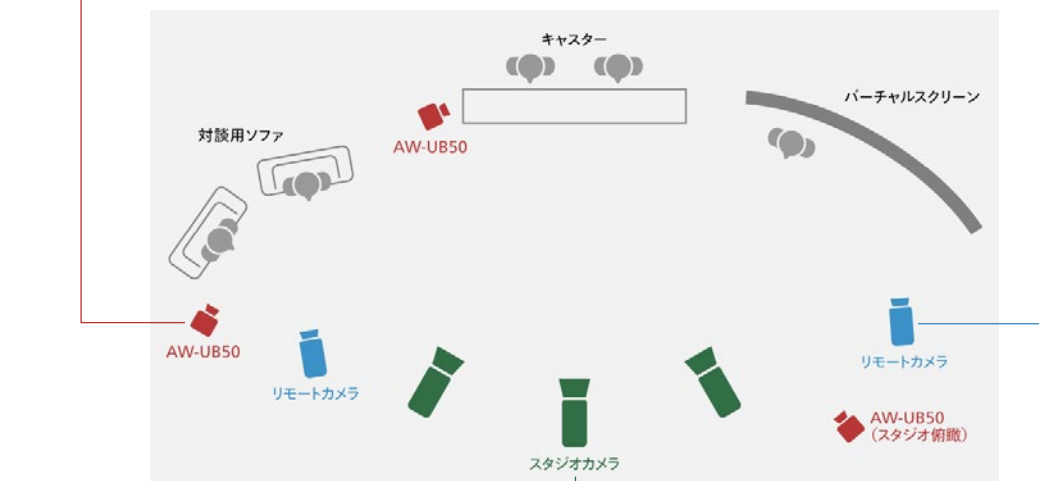


リモートカメラ

機器設置イメージ



※画像はイメージです。



AW-UB50 x 3

キャスター下手に 1 台、スタジオ俯瞰に 1 台、
いずれもコーナーチェンジ時のブリッジカットに使用。
対談シーンにも 1 台設置。

AK-UCX100 x 3

キャスター二人のアップで各 1 台、引きカットで 1 台の計 3 台。
番組構成に応じて柔軟に配置変更。

リモートカメラ x 2

バーチャルスクリーン前に 1 台、対談シーンに 1 台設置。